

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.3.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)吹田市営新佐竹台住宅集約	階数	地上11F
建設地	大阪府吹田市佐竹台2丁目25-2	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居専用地域 法22条	平均居住人員	305 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年3月 予定	評価の実施日	2016年11月20日
敷地面積	3,692 m ²	作成者	亀井 円裕
建築面積	1,097 m ²	確認日	2016年11月29日
延床面積	6,132 m ²	確認者	亀井 円裕



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
 ①参照値 100%
 ②建築物の取組み 54%
 ③上記+②以外の 54%
 ④上記+ 54%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.4

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.7

3 設計上の配慮事項		
総合 市営住宅の建替事業として、①居住者や周辺住民の利便性に配慮した配置・動線計画、②防災・防犯に配慮した施設計画、③高齢者・障害者に配慮した施設、④駐車場の安全性を考慮した施設計画、⑤日影やプライバシー等近隣に配慮した計画をめざす。		その他 特に無し
Q1 室内環境 住戸内は界壁遮音性能、界床遮音性能のほか、外皮性能や屋光率にも配慮し、質の高い居住空間を確保している。また住戸と共用部分のすべてに☆☆☆☆の建材を使用するなど、空気質環境にも配慮している。	Q2 サービス性能 共用部分は建築物移動円滑化基準を満たす。また内装に防汚性の高い仕上げ材料、外装に水切り等設置、防錆対策を実施するなど、維持管理に配慮した設計である。この他、給排水衛生配管に樹脂管を使用する等、更新必要間隔が長	Q3 室外環境(敷地内) 周辺環境に配慮した配置・形態、植栽による良好な景観によりまちなみ・景観に配慮している。またシンボルロードや集会所等の空間・施設提供、見通しのよい樹木の配置計画により、周辺地域に配慮している。また緑化や高い空地
LR1 エネルギー 高断熱外皮、高効率機器の採用により、熱負荷抑制と一次エネルギー消費量の削減に寄与している。	LR2 資源・マテリアル 節水器具や、躯体材料以外のリサイクル材料の使用により、水資源保護、非再生性資源の使用量削減に寄与している。また、化学物質排出把握管理促進法の対象物質を含まない材料の使用により、有害物質の使用回避をしている。	LR3 敷地外環境 卓越風向の把握や隣棟間隔の確保により、周辺地域の温熱環境悪化の改善を図っている。また光害対策ガイドラインの一部を満たすことで、夜間の光害の削減をしている。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム 2015年版

大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H27-0070

Osakafu-新築・既存 2015V1.02

【建物概要】	建物名称	(仮称)吹田市営新佐竹台住宅集約建替事業(B棟)					
	建設地	大阪府吹田市佐竹台2丁目25-2					
	用途/区分	集合住宅					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					A	
	CO2削減					5	
	省エネ対策					3	
	みどり・ヒート アイランド対策					3	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
	エネルギー消費量の報告					対象外	
【評価項目】							
省エネルギー対策		① CO2削減					
		② 省エネ対策					
	項目	評価内容			スコア	評価	
	① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価			4.8	5	
② 省エネ 対策	外皮性能	CASBEE「Q1-2. 1. 2」 のスコアによる評価	建物全体	1.0	3		
			住戸・宿泊	3.0			
	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				3.0	
	自然エネルギーの利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				3.0	
	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				5.0	
	効率的運用	CASBEE「LR1-4」のスコアによる評価				3.0	
	水資源保護	CASBEE「LR2-1」のスコアによる評価				3.4	
	エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。			報告する 報告しない	-	
みどり ヒートアイランド対策		③ みどり・ヒートアイランド対策					
	項目	評価内容			スコア	評価	
	生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価			2.0	3	
	敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価			4.0		
	温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価			4.0		
その他							
		技術の名称	考慮事項				
	先進的技術の導入						
	特に配慮した事項						